

町のゲートウェイに!

「益城ファーマーズヴィレッジ・ファーム」を運営するのは、町と町商工会が出資し設立したまちづくり会社「(株)未来創成ましき」です。

(株)未来創成ましきは、町の復興に向けた施設の構想づくりや整備、運営を担う会社として、昨年3月に設立。現在は民間企業と惣領地区の「惣領にぎわい拠点」の整備に携わったり、木山地区のコワーキングスペースやシェアオフィスの運営準備にも取り組んでいます。

ファームは今年4月から、(株)未来創成ましきの運営するお店として新たなスタートを切りました。ファームで顔を見かけるのが、(株)未来創成ましきの一員、中村哲さん(44)。「ファームは地元の特産品や名産をこ

紹介しながら『人と益城町とのご縁をつなぐゲートウェイ(玄関)でありたい』という思いで運営しています」と話します。

中村さんは福岡県出身。5年前の熊本地震直後、東京のコンサルティング会社から、復興計画づくりの応援に駆け付けました。そして「ご縁をいただいた益城町の人たちと、もつと一緒に頑張ってみたい」と、益城町に拠点を移しました。

現在も、活発に活動している中村さん。「町には、前向きでパワフルな人がたくさんいらっしゃいます。皆さんと力を合わせて、ファームを拠点に、益城の魅力を全国や世界に発信していきたい」と元気な笑顔を見せてくれました。

市だごは、3月の木山初市の頃に各家庭で作られていた、町の春の風物詩。時代が移るにつれ、家庭で手作りされることも少なくなり、いつからか「昔ながらの市だごを食べたい」というお客様の声に応えて作りたことから、今では店の看板商品になりました。

一緒に写真に収まった二人の表情は、とびきりの笑顔。「毎日、ケンカしいしいやりります」とうれしそうに話す秋江さんの隣で、「親子だけん、後腐れのなかですもん」と、恵美さんもおおらかに笑いました。



米の粉で作った団子をこしあんでくるんだ「市だご」

仲良し親子が作る! 名物の「市だご」

「ファーム」から県道235号(益城菊陽線)に足を進めて南に下ると、町の名物「市だご」を手作りする「九ちゃん万十」があります。店主の池上秋江さん(80)と、長女の松原恵美さん(51)親子が店を切り盛りしています。



木山交差点から北上してすぐ左側にある「九ちゃん万十」



親子で店を切り盛りする池上秋江さん(左)と長女の松原恵美さん



「(株)未来創成ましき」の一員としてファームの運営に携わっている中村さん

